

学校研究

1 研究の概要

(1) 研究主題

集めた情報を適切にまとめ、伝える力の育成

～教科等の見方・考え方を働かせる授業を通して～

(2) 研究仮説

児童が教科の見方・考え方を働かせ、情報活用能力(適切にまとめる・伝える力)を身につければ、児童の学力が向上するであろう。

(3) めざす児童の姿

- ① 伝える相手と目的を明確にもち、課題を解決するために情報を集める児童
- ② 集めた情報を生かし、相手に分かりやすく適切にまとめる児童
- ③ まとめた情報を生かし、相手に分かりやすく適切に伝える児童

児童
びよりよ
いする
学

2 研究の内容

邑知 coil = 情報活用能力 (資質・能力)



情報活用能力

集: 情報を整理する

ま: 分かりやすく・伝わりやすくまとめる

伝: 分かりやすく伝える

教科の見方・考え方を働かせるための

★ 単元計画

(単元のゴール・目的・相手)

★ 授業

(発問・問い合わせ・ゆさぶり)

★ ループリック評価(学習到達度評価)

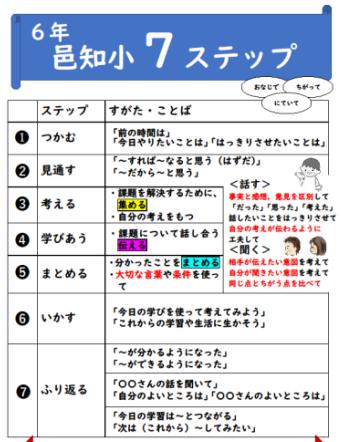
(見取り・価値づけ)

各教科等の特質に応じた見方・考え方のイメージ(一部)

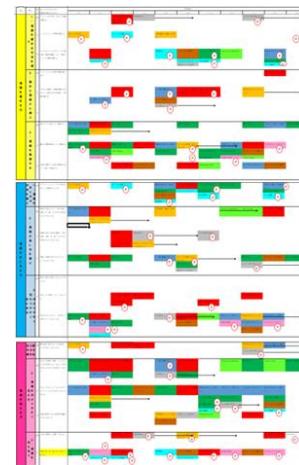
言葉による見方・考え方	自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉え、その関係性を問い合わせること。
社会的事象の地理的な見方・考え方	社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結びつきなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること。
社会的事象の歴史的な見方・考え方	社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり、事象同士を因果関係などで関連付けたりすること。
現代社会の見方・考え方	社会的事象を、政治、法、経済などに關わる多様な視点(概念や理論など)に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などを関連付けること。
数学的な見方・考え方	事象を、数量や图形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的、発展的に考えること。

教科の見方・考え方

7step



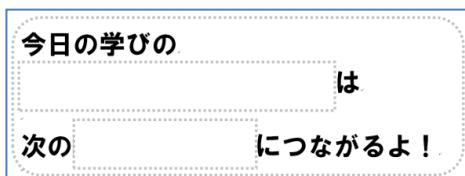
邑知 coil



邑知 Coil の確認

- ① 邑知 Coil の確認
- ② 邑知 Coil の変換
 - …情報教育担当
- ③ // の集約
 - …学習部で

Next シート(情報活用能力)

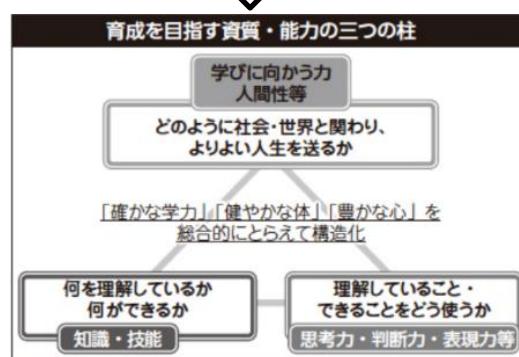


Subject eye (教科の見方・考え方)

- ・ 単元の学習に必要な「教科の見方・考え方」を明確にし、児童と共有する。

ふり返りの視点

これから



できわか

友達と比べた気付き・変容 + どう使う

3 評価・検証方法

(1) ルーブリック評価規準（学習到達度評価）

- ・邑知小版ルーブリック評価の作成

(2) 学力調査等を活用した検証

① 前期（7月）・後期（12月）

- ・各種学力調査問題等 ※紙か Google classroom のクラス→課題の提出→課題の添付→採点
- ・児童アンケート ※Google フォームで質問項目を作成
→Google スプレッドシートで集計・分析・グラフの自動作成

② 短期（12～1月）

- ・県評価問題 ※既存の「まな bank」を活用する
- ・羽咋市学力調査
 - 国語 「情報」（※）に関する設問 学習指導要領「情報」「情報と情報の関係」
 - 算数 「データの活用」（※）に関する設問 学習指導要領「D データの活用」